

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	南 誠
職 位	GCOE 研究員
<p>研究概要</p> <p>本プロジェクトの目的は、社会運動と地域社会という「現れの空間」に焦点を定めて調査し、中国帰国者の生活世界と親密圏の変容や、「ひとつの家族と二つの祖国」という生活圏の実現をめぐる親密圏と公共圏の再編成を明らかにすることにある。こうした目的を設定したのは、従来の中国帰国者研究において、その社会運動における主体性と地域社会での生活実態が重要であるにもかかわらず、それに関する調査と論及が不十分だったからである。また国民と非国民のはざまにある中国帰国者というユニックな存在を通じて、日本社会におけるエスニックマイノリティの生き方と多文化共生社会に関する新しい知見の獲得を目指すためでもある。</p> <p>以上の研究目的に沿って、今年度は、東京都近辺、名古屋市、京都市、奈良市、岡山市、福岡市や長崎市などで以下のような調査活動をおこなった。</p> <p>第一に、各地域での聞き取り調査とアンケート調査をとおして、それぞれの地域の中国帰国者の生活実態と、越境にともなう親密圏と公共圏の変容と再編成の実態把握を目指した研究活動である。地域のキーパーソンと当事者を中心に行なった聞き取り調査を通して、地域における中国帰国者の生活実態と、親密圏と公共圏の変容と再編成の地域間の差異を明らかにするとともに、多様なライフストーリーを聞き取ることができた。</p> <p>第二に、国家賠償訴訟運動時の各地の動きとその後の動きに関する実態調査をとおして、中国帰国者の公共圏の形成に関する解明を試みた研究活動である。この研究活動を通して、2008 年以降、国家賠償訴訟運動を通じて形成された中国残留日本人孤児全国原告団の機能が弱体化していく一方、それぞれの地域に根ざした新たな動きを明らかにした。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>【著 書】</p> <p>1. 南誠、2012、「国籍とアイデンティティのパフォーマンス・ヴィジュアル」、陳天璽・近藤敦・小森宏美・佐々木てる編著『越境とアイデンティフィケーション—国籍・パスポート・ID カード』新曜社。</p> <p>【報 告】</p> <p>2. 南誠、「中国帰国者問題」、国際シンポジウム：社会を理解する—日中社会学者の対話（2011 年 10 月 28 日、於中国南京大学）</p> <p>3. 南誠、「中国帰国者として、どう生きるか—私の経験と研究を踏まえて」、シンポジウム：中国残留日本人への理解を深める集い（2011 年 10 月 30 日、於神戸市垂水）</p> <p>4. 南誠、「満洲移民をめぐる記憶と表象」、国際シンポジウム「記憶の風景とその表象—東アジアの歴史経験を共有する」（2012 年 3 月 2 日、於長崎大学）</p> <p>5. 南誠、「越境する中国帰国者の生活世界」、国際シンポジウム「グローバル化時代における人間と社会—日中間の対話」（2012 年 3 月 28 日、於長崎大学）</p> <p style="text-align: right;">など</p>	

